

CNA Report Japan

Conferencing News & Analysis Since 1999

Newsletter focused on
Collaborative Conferencing

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 14 2005 年 7 月 31 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cnar.jp Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

ニュース項目

■タンバーク社、多地点接続装置新製品、第三世代携帯テレビ電話ソリューション等発表

タンバーク日本支社からタンバーク社製のテレビ会議システムに関する製品、ソフトウェアアップデート、機能強化などの発表があった。タンバークの製品などの発表は、主なものとしては、1月か7月に行い、4月と10月にはその他の製品発表などを行う。今回は、年 2 回の主な発表のうちの一つ。

今回の発表は、新たな多地点接続装置の発表、第三世代携帯テレビ電話関連の買収、エンド・ツー・エンドによる H.235 のサポート、ソフトウェアバージョンアップ、Border Controller などの冗長性の強化などがある。

◆「MPS 200」新多地点接続装置投入



中規模会議向け TANDBERG MPS 200

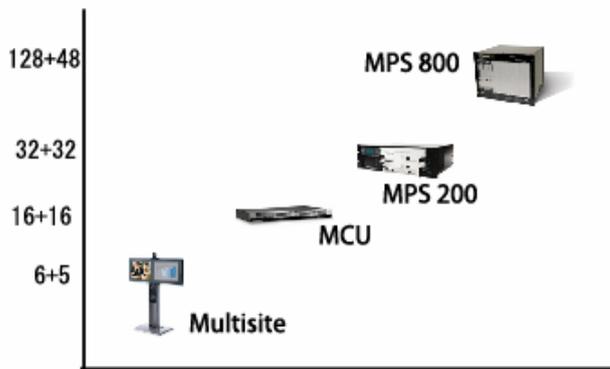
タンバークは、新しい多地点接続装置「MPS 200」をリリース。MPS200 は、MPS と MCU のギャップを埋めるプロダクトレンジの製品。今まで「MPS」と呼ばれていた製品は、「MPS 800」と名称を変更。

MPS200 は、MPS 800 と同じシステムプラットフォームで設計された多地点接続装置。筐体を小さくし、接続数を小さくした製品。MPS 800 は、テレビ会議 128+音声 48 拠点をサポートしているが、MPS 200 は、テレビ会議 32+音声 32 拠点の中規模の会議に対応する。回線は、ISDN、IP、V.35 をサポート。

MPS 200 より下位のプロダクトレンジにある、「MCU」は、IP を標準実装とし、ISDN 接続についてはオプションとした。

つまり、IP オンリーモデル。MCU は、テレビ会議 16 拠点+音声会議 16 拠点、あるいは、テレビ会議 8 拠点+音声会議 8 拠点の小規模などの会議をサポートとした小規模拠点向けの多地点接続装置。

MPS 200 製品ポジショニング



*タンバーク社発表資料により、CNA レポートにて作成。
*縦軸は、「テレビ会議拠点数」+「音声会議拠点数」



大規模会議に対応する TANDBERG MPS 800

◆第三世代携帯テレビ電話向けゲートウェイ

ビジュアルコミュニケーションソリューションを包括的に提供するというタンバーク社の方針から、第三世代携帯テレビ電話に関するソリューションを強化するため、オランダの Ivigo 社

を買収。Ivigo 社の技術を活用し、タンバーク社製の第三世代携帯テレビ電話向けゲートウェイ製品を開発する。企業向け製品は、2006年第一四半期に発表予定。

今回の第三世代携帯テレビ電話関係の買収によって、ビジュアルコミュニケーションソリューションの全てを基本的にはタンバーク社が提供することができることになる。しかし、PCテレビ会議システムソフトウェアについては、自社製品は提供していない。その点については、タンバーク社は、提携を強化しているマイクロソフトの Office Communicator で提供する。

Office Communicator は、SIP やプレゼンス機能、インスタントメッセージング、データ共有機能に対応している。また、Office Communicator は、TANDBERG TMS との連動が可能。

◆認証と暗号化によるエンド・ツー・エンドのセキュリティの強化

セキュリティ機能強化として新たに H.235 認証機能を搭載し会議システム利用の安全性を向上。TANDBERG 製品の場合エンド・ツー・エンドで H.235 認証が可能となる。H.235 は、ITU-T にて標準化された認証に関する規格。

仕組みとしては、最初にシステム担当が端末にユーザーネームとパスワードを設定する。エンドユーザーは、端末をネットワークに接続するのみで、端末機器同士が自動にてバックグラウンドにて認証する。

それぞれの端末が、一意のユーザーネームとパスワードを設定することによりゲートキーパーあるいはボーダーコントローラーにおいて認証を行う。認証が行われ端末が登録されることにより初めてテレビ会議通信が行える。

つまり、ユーザーネームとパスワードを設定していない端末は、認証段階ではじかれることになりゲートキーパーあるいはボーダーコントローラー経由の通信ができない。従って、無用な端末が入ってくるのを防ぐことができ、セキュリティを確保できる。

認証と暗号化によるセキュリティについては、ソフトウェアアップグレードにより対応可。MXPの端末については、F3より、Classic 端末(MXP 端末以前のタンバーク社テレビ会議端末)については、ソフトウェアバージョン E5/B10 から、ゲートウェイについては、ソフトウェアバージョン G3 から、

gatekeeper は、N3、ボーダーコントローラーは、Q2 からサポート。

◆Border Controller/GateKeeper のセッション処理能力強化

Border Controller/GateKeeper は、最大同時セッション数が従来の 20 セッションから 100 セッションまで処理できる。(384kbps のコールを 100 コールハンドリングできるということ)

◆テレビ会議端末向けの新しいソフトウェアバージョン「F3」の概要

今回発表された、テレビ会議端末向けの新しいソフトウェアバージョン「F3」については、使い勝手を向上させるとともに、新機能を入れた。

使い勝手の面では、電話帳機能、カメラコントロール、名前入力編集、ビデオ映像入力ソースの変更、フロントメニューに、不在着信コールの表示ができるようになった。

新機能としては、トラブルが発生した際に、画面上に、システム状態を細かくレポートできるようにした機能を追加。たとえば、回線断の際には、回線切断のメッセージを表示。

また、「オートレイアウトスクリーン機能」も新たに追加した。会議参加者数や回線接続状況などをシステムが自動に判断して、最適な画面レイアウトを設定する。ユーザーフレンドリーな機能で、用途に応じて機能をオンオフできる。

ラージPOP。16:9のモニターに対応した新しい画面レイアウト機能。1+3の画面レイアウトから新たに、1+2の画面レイアウトをサポート。画面レイアウト切り替えは、レイアウトボタンで切り替え可能。

◆ゲートウェイ用の G3 ソフトウェアバージョン

G3 ソフトウェアバージョン搭載ゲートウェイでは、TANDBERG Expressway、H.235 version 3 AES、H.235 認証、H.239 Dual Stream を新たにサポートした。

H.235 AES ではポリコムテレビ会議製品との暗号化通信を可能とし、H.239 Dual Stream ではソニー製品などと連動できる。

◆ Border Controller 、 GateKeeper 、 TANDBERG Management Suite の冗長性強化

Border Controller、GateKeeper、TANDBERG Management

Suite は、冗長性(redundancy)を強化。システムやネットワークを多重化し、仮にテレビ会議中に主で使っているシステムやネットワークがダウンしても、新たな接続時はバックアップのシステムやネットワークへ自動的に引き継ぎ、何も問題がなかったかのように、会議をすることができる。

また、TMS の冗長性強化については、ユーザーインターフェイスとSQL データベースを多重化することにより、TMS の信頼性を向上させた。複数のユーザーインターフェイスから複数の SQL データベースへ参照が行える。SQL サーバーは、クラスタリングされており、それぞれの SQL サーバーが格納しているデータは常にシンクロされている。

その他の TMS の追加機能としては、アドホックミーティングのモニタリング機能が提供される。これにより、全ての会議がモニタリングできるようになった。

■NTTコムウェア、第三世代携帯テレビ電話との相互運用ができる純国産テレビ会議システム「ビジュアルカンファレンス」



PC会議端末画面

NTTコムウェア株式会社(東京都品川区)は、2001 年以來「ビジュアルカンファレンス」テレビ会議システムを開発、販売してきた。今までに、通信販売、テレマーケティング、大学、電力、官公庁、システム開発、IT関連、通信系など多岐にわたる業種で導入され、ある導入ユーザーは、ISDN による会議システムからこのビジュアルカンファレンスへ移行することにより、通信コスト等が削減できた(150台のPC端末による社内会議に利用)。また、テレマーケティング用ツール、受付システム、遠隔教育用システムとして導

入したユーザーもある。

NTT コムウェアによると、幹部から担当者レベルの社内会議、定例会議、緊急会議、災害対策会議、保守・修理等の遠隔対応、講演・対話会など幅広い利用用途があるという。

このビジュアルカンファレンスは、従来のテレビ会議端末、PC 端末、電話(携帯電話/PHS/一般電話)、SIPフォンに加えて、次世代携帯テレビ電話(3G-324M)をサポートしたシステム。ビジュアルカンファレンスによって、これらの端末間でのコミュニケーションがシームレスに行える。

ビジュアルカンファレンスは、テレビ会議専用端末としては、ソニー製の PCS シリーズのテレビ会議システムを採用し、PC 会議端末ソフトウェアとサーバーソフトウェアについては、NTT コムウェアで独自に開発した。サーバーは、多地点接続の機能だけでなく、次世代携帯テレビ電話(3G-324M)へのゲートウェイ機能などもひとつのサーバーの筐体の中に内蔵されている。

ビジュアルカンファレンスは、ハードウェア処理により、高い品質の会議を実現する。ハードウェアによりミキシングを行い、複数拠点の同時発声にも対応。また、オートゲインコントロール、エコーキャンセラーを内蔵。



会議サーバーVCS6065C



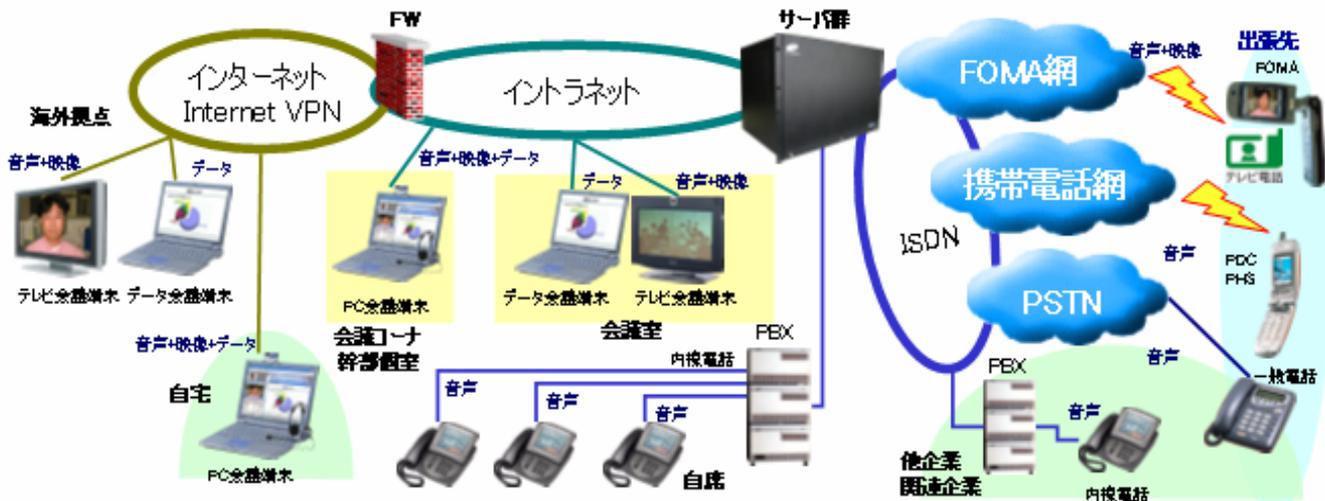
会議サーバーVCS6065E

PC会議端末ソフトウェアは、「VCS-VVD 3.0」と呼ばれ、ヘッドセット、USB カメラを接続し、音声、画像での会議参加、資料共有を可能とする。また、「VCS-xxD 3.0」では、テレビ会議

端末、FOMA 端末、電話端末と連動し、資料共有、会議運営機能等が可能。(下図:システム構成図)

ビジュアルカンファレンスは、会議端末の設置場所、利

電話番号とプッシュボタンによるパスワード認証後の会議参加。テレビ会議端末からのログインは、「IPアドレス」入力エリアにパスワード入力。PC会議端末では、アカウントとパスワード



用人数、利用形態を考慮してシステム構築を行うが、構築モデルとしては、大きく分けて3パターンある。(1)6拠点までの小規模モデル。たとえば、会議端末に、テレビ会議端末を6台以下で利用する場合。(2)3G携帯モデル。会議サーバーと、会議端末に、PC会議端末とFOMA携帯テレビ電話のみを利用する場合。(3)オールインワンモデル。会議サーバーと、会議端末に、PC会議端末、テレビ会議端末、電話、FOMAを利用する場合。などの構築モデルをNTTコムウェアでは提案している。

また、会議モニターソリューションを提供しており、以下の3種類がある。(1)シングルモニターソリューション。各会議室にひとつのモニターを設置し、会議画像を表示。(2)デュアルモニターソリューション。各会議室に二つのモニターを設置し、会議画像と、会議資料をそれぞれ表示。(3)マルチモニターソリューション。各会議室に一つのモニターと、参加者人数分のPCを設置し、モニターへは会議画像を、PCに会議資料をそれぞれ表示。参加者がプレゼンテーションを行う際に、移動せずに着席したまま会議資料を操作可能。

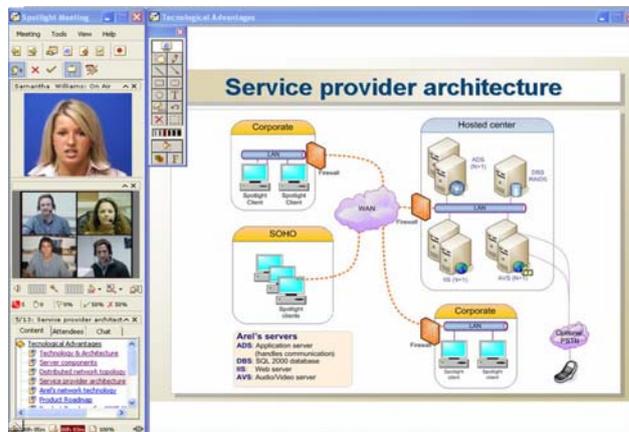
ビジュアルカンファレンスの特長については、以下のとおり。(1)リモコン操作で簡単にテレビ会議が行える、(2)テレビ会議端末呼び出し機能。サーバーから個々の端末を呼び出す。

セキュリティ関係では、(3)携帯電話や公衆電話からの

ド入力、LDAPサーバーとの連携によるLDAP認証、eメールに添付される認証ファイルの起動、の3種から選択できる。(4)不正ログイン者は、会議運営者により強制退席が可能、強制退席したアカウントは同一会議では利用が不可能になるため、再度の不正ログインが不可能。

会議運営関係では、(5)会議運用機能で会議参加者は会議に集中できる。プレゼンターの切り替えや会議資料の立ち上げ、音声映像の切り替え、会議端末の呼び出し、遠隔拠点のカメラ操作などを会議進行者で実施。(6)会議運用時では、マウスのみで資料操作が可能。

■ イスラエルのアーレル社 Web 会議システム「Arel Spotlight」



Arel Spotlight Web 会議システム

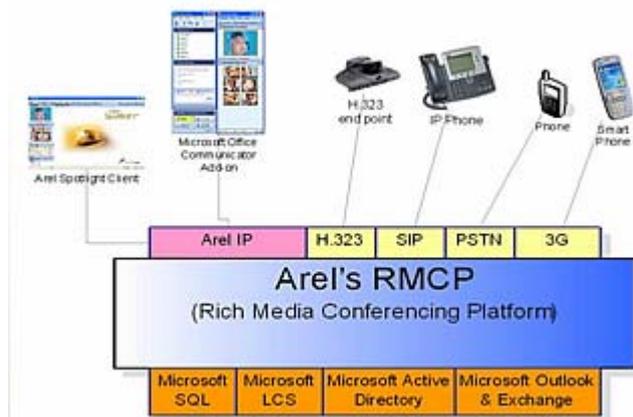
イスラエルの Web 会議システムを開発する、アーレル社 (Arel Communications and Software)は、1988 年メッセージングスイッチソリューションの会社として設立され、その後 1994 年米国ナスダック市場上場、1995 年からインタラクティブ・ディスタンス・ラーニング (IDL) の開発を開始、2000 年には、IDL市場にてリーディング企業として評価を得た。その後、2002 年には、e-ラーニング・Web 会議システムプラットフォーム「Arel ICP」を開発。2004 年には、事業拡大のため、アメリカのアトランタ、ボストン、デイトン、欧州では、フランスに事業拠点を設置し、世界各国のチャネルパートナーを通して、同社の Web 会議システムが販売されている。アジアでは、韓国や台湾等に Arel のパートナー企業があるが、日本については、事業開発担当シニアディレクター Riri Elfassy 氏によると、「これから本格的に日本国内のパートナーを探していきたい。」と、日本でのブロードバンドの普及やITへの関心の高さに日本市場へ期待を見せる。同氏には、Arel の Web 会議システムを使って、イスラエルと、CNAレポート編集長の事務所 (千葉県船橋市) を結び取材した。

先述の Arel ICP とは、テレビ会議、ウェブ会議、データコラボレーション、アプリケーション共有、Eメール、メッセージャー、電話、VoIPなどのコンポーネント機能をシームレスに統合した、リアルタイムのコラボレーションを実現するプラットフォーム。

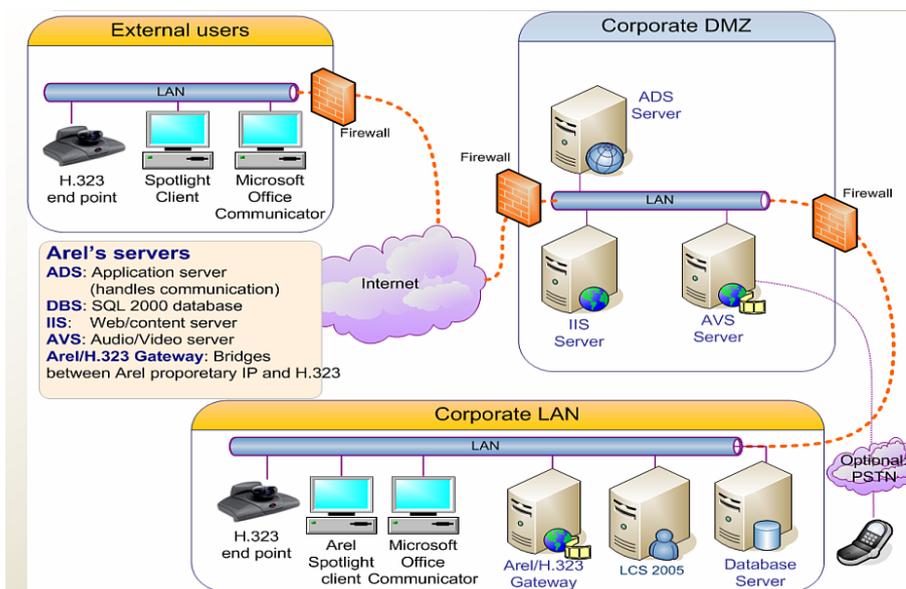
同社の「Arel Spotlight シリーズ」は、同プラットフォーム上に構築された製品で、「Arel Spotlight Meeting」、「Arel Spotlight Webinar」、「Arel Spotlight Campus」から構成されている。ミーティング用、ウェブでのオンラインセミナー、そして遠隔講義用とそれぞれ

の使用用途に最適化されたシステムが提供されている。「Arel Spot light は、単にコミュニケーションのプラットフォームだけではなく、インタラクティブで効率的な仕事環境を提供するプラットフォームでもあり、実際のミーティングを置き換えることができる。」(Arel)

Arel Spot light シリーズの特長としては、インターネット接続と、PC、Webカメラ、ヘッドセットがあれば、プラグインソフトウェアをダウンロードすることにより、すぐに会議が行えるWeb 会議システム。欧米では、携帯電話事業者、自動車メーカー、小売業、医薬品、銀行、大学など幅広く多種の業種にて導入されているという。



アーレル・リッチメディア・コンファレンシング・プラットフォーム (下図:Arel システム構成例)



Arel Spotlight シリーズは、さまざまなネットワークとの相互接続が可能で、ゲートウェイ機能を提供することにより、H.323 テレビ会議端末、SIP フォン、IP電話、との連動が可能。

一会議セッションには、16までの映像ウィンドウを表示させて、多人数でも参加者の表情などを表示できる。

音声関係では、全二重に対応した音声の同時接続を32までサポート、音声はFM音声に近いクリアな音声を提供し、エコーキャンセラー機能を内蔵。

回線関係では、IP回線の帯域に応じて最適な映像や音声品質を自動設定、ネットワーク状況に合わせた QoS 機能を提供。帯域が十分ある場合は、映像や音声品質が上がり、帯域が十分でない場合は、そのネットワークの状況にあわせた品質で接続する。また、TCP のネットワーク上で UDP パケットをカプセル化して効率よくデータを転送し遅延をおさえる機能(Ultrastack、Arel の独自技術)も内蔵している。

Web 会議で共有できるファイルは、マイクロソフトエクセルやワード、パワーポイント、アドビのacrobat、ウェブのHTMLページ、音声、映像フォーマット(WMV、AVI、MP3、WAV)、あるいは、3Dや CAD データなどさまざまなファイルを共有することが可能。

また、セッション中の音声、映像、共有ファイルは、SSL(128bit)、3DES、AES などの暗号化でセキュリティを確保する。セッションは、録音記録してアーカイブも可能。

その他の特長としては、(1)マイクロソフト Office Communicator や Live Communication Server との連動により、多地点でのミーティングが行える、(2)Outlook や Lotus Notes との統合でそれらのアプリケーションからミーティングの予約などが行える、(3)マイクロソフト Active Directory とのインテグレーション、(4)プレゼンスやインスタントメッセージング機能、(5)ファイアウォール NAT 越え機能、(6)サーバー用の冗長性や信頼性を向上するためにサーバーのクラスタリングやロードバランシングを提供、(7)会議予約や運用のマネージメント管理機能、レポート機能、(8)多言語対応、(9)API によるカスタマイズ対応。

Arel Spot light のサーバーコンポーネントは、(1)AVS(Audio Video Server)。ソフトウェア MCU(多地点接続機能)。(2)ADS(Application Distributed Server)。Web 上でデータ会議を可能にするコンポーネント。(3)Web Cluster。データベースアクセスの処理を司るコンポーネント。(4)Centralized SQL Database。データベース機能。フェイルオーバー(障害迂回)機能を実装。

オプションサーバーコンポーネントとしては、ゲートウェイ機能を提供するものになる。Arel/H.323 Software gateway、

Arel/SIP Software gateway、Arel/PSTN gateway、Arel/3G gateway からなる。3Gについては現在、ベータ版テスト中。

ショートニュース

◆ビジュアルオンライン会議システム「Visual Nexus」(トーマンサイバービジネス株式会社開発)を販売する株式会社 アイピー・ネットが、7月21日より「沖電気ネットワークインテグレーション株式会社」に社名が変更となった。本社所在地は、東京都江東区越中島1丁目2番21号 YKビル(門前仲町)。従業員は210名。売上目標は年間100億円(2005年度)。事業内容は、ネットワークインテグレーション・サービス事業(コンサルティング、設計、構築、運用保守サービス)。

◆音声会議及びWeb会議サービスを提供する米プレミアグローバルサービス社(日本:プレミアコンファレンシング株式会社)は、米の会議サービス事業者 Netspoke 社を1230万USD(13億8600万円)で買収。今回の買収によりプレミアグローバルサービス社の年間売上を500万USD(5億6000万円)押し上げる。トレーニング、セールスオートメーション、遠隔教育の分野でのビジネスを強化する。

◆イタリアのテレビ会議メーカーアエスラ社と、多地点接続装置などを開発するイスラエルのラドビジョン社はOEM提携し、ラドビジョン社が、アエスラ社ブランドで、多地点接続装置、ゲートウェイ、ゲートキーパー、運用管理システムソフトウェアをOEM供給する。アエスラ社はインフラストラクチャー系のプロダクトラインを強化する。

イベント情報

■ファイアウォール/NATを超えたビデオ会議が簡単に実現出来る TANDBERG 製品による高品質「ビデオコンファレンス」&「ビジュアルコミュニケーション」トータルソリューションセミナー

日時:8月10日(水)13:30~17:20(受付開始13:00)
場所:新宿三井ビル31階(東京都新宿区西新宿2-1-1)
主催:NTTアドバンステクノロジー株式会社
<http://ngw.ntt-at.co.jp/seminar/2005/tandberg0810/index.html>

■Polycom Days

ポリコム ビデオ会議システム新製品セミナー

日時:8月10日(水)15:00~17:00
場所:ポリコムジャパン株式会社
紀尾井町オフィス セミナールーム
主催:ポリコムジャパン株式会社
<http://www.polycom.co.jp/event/polycomdays/index.html>

CNA レポート・ジャパン 編集長 橋本 啓介 k@cna.jp
(Vol 7. No.14 2005年7月31日号終わり)次号 Vol 7.
No. 15 は、2005年8月15日の発行を予定しております。